



古文書が語る東大阪の歴史と魅力

江戸時代 「ハンコ社会」の始まり と「村」の運営

本市では、甲南大学と連携して古文書などの史料の調査整理を進め、その成果をみなさまにご紹介しています。今回は、江戸時代の村で使われていた『印鑑』、『村の運営と領主支配』をテーマに講演を行います。古文書から広がる歴史の時空を一緒に共有しませんか。

【とき】

令和2年1月26日（日）
13:00～16:00（開場 12:30）

申込不要

入場無料

【ところ】

東大阪市民美術センター 1階

当日先着
100名まで



※手話通訳をご希望の方は、令和元年12月27日までに市史史料室へFAXにてご連絡ください。

近鉄奈良線東花園駅下車北へ徒歩10分

周辺に有料の駐車場がありますが、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

市史史料室のウェブサイトへ移動します。 →



【主催】東大阪市・甲南大学

【お問い合わせ】東大阪市人権文化部文化国際課市史史料室

電話 06-4309-3212 FAX 06-4309-3823



第1部

江戸時代の文書行政と印鑑

—「ハンコ社会」の到来とその使われ方—

東谷 智 (甲南大学文学部歴史文化学科教授、歴史文化研究センター研究代表者)

江戸時代は多くの場面でハンコを捺す「ハンコ社会」でした。江戸時代の古文書を例に、

- ① 文書作成の際にどうハンコが使われたのか、
- ② なぜほぼすべての家でハンコを持っていたのか、
- ③ 明治から現在までハンコの利用方法がどう変化したか、などについてお話しします。

第2部

江戸時代における村の運営と領主支配

—河内国渋川郡荒川村の分村運動の事例から—

東野 将伸 (岡山大学文学部人文学科講師)

江戸時代の村は、領主支配と住民の生活の双方にとって意味のある枠組みとして機能していました。

しかし、1つの村を複数の領主が分割して治めることや、村内に「組」や「郷」といったまとまりがある場合も多くみられました。

江戸時代の分村運動についての古文書を読み解きつつ、多様な村の運営方法と領主支配のあり方などについてお話しします。

関連イベントのお知らせ

古文書パネル展示: 令和2年1月28日(火)から2月4日(火)
東大阪市役所本庁舎 22階市民ギャラリー

《ギャラリートーク》 令和2年1月28日(火)13時~13時30分
東大阪市において古文書の調査、整理を行っている市史史料室の調査員による
ギャラリートークを実施します。